

紋別市における景気動向調査報告書

＜平成 16 年度 第 4 四半期＞

紋別商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 17 年 3 月 31 日

(2)調査対象期間 平成 17 年 1 月～3 月期の実績および平成 17 年 4 月～6 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会の 5 業種 150 社を対象に、郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30 社	16 社	53.3%
水産業部会	30 社	22 社	73.3%
機械工業部会	30 社	21 社	70.0%
建設業部会	30 社	19 社	63.3%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	22 社	73.3%
合計	150 社	100 件	66.7%

注) 本調査結果の中で、D・I 値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）で、好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す。

II. 概況

1. 全体の動き

紋別市景気動向調査の第IV四半期＜1月～3月＞における業況は、前年同期と比較し「好転・やや好転 企業」10.0%、「悪化・やや悪化 企業」73.0%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は▲63.0となった。

今回の業況を部会別に見ると、商業・食品業D・I値▲93.8、水産業D・I値▲63.6、機械工業D・I値▲38.1、建設業D・I値▲52.6、観光サービス業・諸業D・I値▲72.7と、全ての部会でマイナスの回答となった。

業況悪化の要因としては、依然として売上の減少が全業種で大きなウェイトを占めているが、それに加えて、人件費の増加（水産業）、同業者間の競争（建設業、商業・食品業）、諸経費の増大（機械工業、観光サービス・諸業）などの問題点を挙げている。

しかしながら、今期に比べた来期の見通しは「業況」・「売上」とも、17.0ポイント改善するという見通しとなり、期待される場所である。

また、不況による先行き不透明感などから設備投資にも慎重な動きが続いているが、「時期未定ながら設備投資を検討している」との返答が、10.7%増加した。

2. 業況判断

		今回調査	前回調査	前年同期
業況判断 D・I	今 期 実 績	▲63.0	▲41.2	
	来 期 見 通 し	▲46.0	▲55.0	

第IV四半期（1～3月）における業況判断 D・I は、全体で▲63.0となった。

業種別にみると、商業・食品業で▲93.8と非常に厳しい状況がうかがえるが、来期の見通し（4～6月）では▲62.5と、マイナスながらも改善するという見通しとなった。

また、前期▲10.5と改善の動きが見られた機械工業は、第III四半期の反動からか今期▲38.1と再び低迷、来期も横ばいという慎重な見通しとなっている。

3. 売上状況

		今回調査	前回調査	前年同期
売上 D・I	今 期 実 績	▲60.0	▲40.2	
	来 期 見 通 し	▲43.0	▲61.0	

今期の売上 D・I は、全体で▲60.0となった。業種別にみると、商業・食品業が▲93.8となり、前期に引き続き並び非常に厳しい状況がうかがえる。基幹産業である水産業においても▲45.5と厳しい数字となったが、業況が活発となる来期には▲13.6まで改善するという見通しとなっている。

4. 資金繰り見通し

		今回調査	前回調査	前年同期
資金繰り D・I	今 期 実 績	▲46.0	▲25.5	
	来 期 見 通 し	▲33.0	▲45.0	

今期の資金繰り D・I は、全体で▲46.0となり、前回の見通しの通り厳しい結果となった。業種別に来期の見通しを見ると、水産業が▲9.1と大幅に改善される見込みであるが、建設業・観光サービス業で▲50ポイントを超える厳しい見通しとなっている。

5. 設備投資の実施







時 期	今回調査	前回調査
今期実施	3. 1%	3. 0%
来期実施予定	0. 0%	1. 0%
時期未定だが実施予定	21. 6%	10. 9%
実施予定なし	75. 3%	85. 1%

6. 経営上の問題点（複数回答あり）






	今 回 調 査		前 回 調 査	
第1位	売上の不振	68ポイント	売上の不振	70ポイント
第2位	得意先（客足）減少	56ポイント	得意先（客足）減少	57ポイント
第3位	同業者間の競争	36ポイント	同業者間の競争	36ポイント

「経営上の問題点」に関する回答では、本年実施した調査では全て同じ順位となった。売上の不振・販売（金額・客数）の減少と、それによる競業の激化を訴える声が多数を占めた。

7. 業種別 D・I について

		全 体	商 業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光・レ ス・諸業
							
業況判断 D・I	今期実績	▲63. 0	▲93. 8	▲63. 6	▲38. 1	▲52. 6	▲72. 7
	来期見通し	▲46. 0	▲62. 5	▲27. 3	▲33. 4	▲63. 1	▲50. 0
売上 D・I	今期実績	▲60. 0	▲93. 8	▲45. 5	▲38. 1	▲52. 6	▲77. 3
	来期見通し	▲43. 0	▲62. 5	▲13. 6	▲33. 4	▲63. 1	▲50. 0
採算 D・I	今期実績	▲62. 0	▲81. 3	▲68. 2	▲42. 8	▲52. 6	▲68. 2
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲46. 0	▲62. 5	▲31. 8	▲42. 9	▲47. 3	▲50. 0
	来期見通し	▲33. 0	▲25. 0	▲ 9. 1	▲23. 8	▲52. 6	▲54. 6
在庫 D・I	今期実績	▲13. 1	▲12. 5	▲13. 6	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※参考

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
				

8. 業種別経営上の問題点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
商業・食品業	売上の不振	得意先(客足)減少	同業者間の競争	その他	—
水産業	売上の不振	人件費増	諸経費増大	人材不足	同業者間の競争
機械工業	得意先(客足)減少	売上の不振	諸経費増大	同業者間の競争	特に問題なし
建設業	売上の不振	同業者間の競争	得意先(客足)減少	諸経費増大	—
観光サービス・諸業	得意先(客足)減少	売上の不振	諸経費増大	同業者間の競争	その他

【 部 会 別 の 動 き 】

- 1) 商業・食品業部会
- | | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 売上高 | 前年比で「増加企業」0%、「悪化企業」93.8%と第Ⅲ四半期より悪化割合が0.9%増え、非常に厳しい状況となっている。 |
| 採算 | 前年比で「増加企業」0%、「悪化企業」81.3%、D・I値▲81.3となっている。 |
| 来期見通し | 業況D・I値、売上高D・I値ともに▲62.5、資金繰りD・I値▲25.0と、依然マイナスながら、全ての数値で今期より大幅に改善されるとの見通しである。 |
- 2) 水産部会
- | | |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 売上高 | 前年同期比で「増加企業」22.7%、「減少企業」68.2%、D・I値▲45.5と、「増加」が不変ながら、「減少した」と回答した企業が18.2%増加しており、2分化が伺える。 |
| 採算 | 前年比で「好転企業」9.1%、「悪化企業」77.3%、D・I値▲68.2と、前期よりも22.7ポイント大幅に悪化した。 |
| 来期見通し | 業況D・I値▲27.3、売上高D・I値▲13.6、資金繰りD・I値▲9.1となり、繁忙期を迎え各数値マイナスながらも改善される見通しとなった。 |
- 3) 機械工業部会
- | | |
|-------|------------------------------------------------------------------|
| 売上高 | 前年比で「増加企業」19.0%、「減少企業」57.1%、D・I値▲38.1と、第Ⅲ四半期と比較し22.3ポイント悪化した。 |
| 採算 | 前年比で「好転企業」4.8%、「悪化企業」47.6%、D・I値▲42.8と、前期より21.8ポイント悪化している。 |
| 来期見通し | 業況D・I値▲33.4、売上高D・I値▲33.4、資金繰りD・I値▲23.8とマイナスながら今期よりも改善する見通しをしている。 |
- 4) 建設部会
- | | |
|-------|-----------------------------------------------------------------|
| 完成工事高 | 前年比で「増加企業」15.8%、「減少企業」68.4%、D・I値▲52.6と、第Ⅲ四半期よりも19.3ポイントの悪化となった。 |
| 採算 | 前年比で「好転企業」5.3%、「悪化企業」57.9%、D・I値▲52.6と、工事高の減少とともに採算性の悪化を訴える声が多い。 |

	来期見通し	業況 D・I 値▲63.1、売上高 D・I 値▲63.1、資金繰り D・I 値▲52.6 となっており、来期の見通しは全業種の中で最も厳しい見通しになっている。
5) 観光サービス業 ・諸業 部会	売上高	前年比で「増加企業」9.1%、「減少企業」86.4%、D・I 値▲77.3 と、第Ⅲ四半期と比較し 20.7 ポイント悪化している。
	採算	前年比で「好転企業」9.1%、「悪化企業」77.3%、D・I 値▲68.2 と、依然厳しい状況が続いている。
	来期見通し	業況 D・I 値▲50.0、売上高 D・I 値▲50.0、資金繰り D・I 値▲54.6 となっており、業況・売上高については回復する見通しであるが、採算については依然厳しい見通しになっている。

III. 業界の問題点等

■商業・食品業部会

- ・ 廃業等で空き店舗が増え、商店街区としての機能が果たせない。空き店舗対策が急務
- ・ 大型量販店の出店や駐車場（お客様用）の不足により、中心商店街の空洞化が進んでいる。中心街としての重要性、市役所・銀行・郵便局・病院・商業施設・ホテル・歓楽業等の連動性が欲しい。高齢者集合住宅など、商業施設のみが集中した郊外型大型店にないサービスが必要だと思う。バスの待合所・公衆トイレ・パブリックスペース合体型のもの等が欲しい
- ・ 当業界の問題点は、ビッグな商品開発が2～3年でされているところにあり、デフレが続く限り景気は良くならないので、商品の余剰を招いている
- ・ 少子化

■水産業部会

- ・ ①工場の衛生化促進の問題 ②資源の減少に伴い、一次加工から二次・三次加工へどのような移行方法があるか ③端境期の仕事をどう図っていくか
- ・ ロシアのカニを扱っておりますが、原料がいつまで続くか不安定な状況であり、紋別市地場の魚にも安定感がありません。将来性のある原料の水揚げを紋別市も考え、豊かな漁業都市になる様、そして働く場所について大手の水産業者も参入出来る様、紋別市が場所を提供するなどの環境になればと思います
- ・ 水産加工業にとって原料調達が一番重要です。帆立貝の水揚げの減少、船舶（外国の）保険の問題等が不安要素です
- ・ 原料不足による工場稼働率の低下のため赤字経営

■機械・工業部会

- ・ 人口減
- ・ どうしても目先の売上を追いかけて地域内の同業者間の競争に陥りがちになるが、本来戦うべきは他地域の同業者及び異業種だと思う。今後生き残り革新を平行して進めていきたい。
- ・ 水産業界の原魚不足の為、設備投資を控え、他都市間同業他社の競争がますます激化し、幅広い経営を余儀なくされている。他社よりも一歩リードした経営戦略の為の人材の不足、人件費増が余儀なくされている。
- ・ ①農業関連の戸数減少 ②共同作業増加による大型機械の増加で、個人対応が減少し、取扱品目により店別の増減が多い ③農家個々の大型化が進み、その為の設備増加がある為、関連したものについては売上の増加がある

■建設業部会

- ・ 総体的に工事量の減少が著しく、同業社間の競争も激化している。ここ1・2年が勝負の年になる。知恵を出し合い何とか生き延びていきたい。
- ・ 経済全体の冷え込みにより、消費意欲が無く、業界単独の問題ではないと思う。
- ・ 公共事業の減少
- ・ 請負金額下降
- ・ 道財政立て直しプランの見直し等、今後さらに公共事業の減少が加速され、経費削減等ではどうしようもないところにきている。民需も期待できない。我々全社は生き残れないのであって、廃業も視野に大きな観点から自己のあり方、業界のあり方を検討しなければならない。又、防波堤建設業の衰退により、市内の雇用環境は最悪である。行政は雇用創出を最優先に考え、これ以上の人口流出を阻止して欲しい。

■観光・サービス業部会

- ・ 人口の減少
- ・ 理容院にかかる回数が早い人で2ヵ月程度と長期になり、サイクルが悪化してる。
- ・ BSE問題。輸入停止により国内牛も値上がりした事。
- ・ 観光客様相手の商売をやっており、2月流氷、5月GW、6月花観光、7～9月夏観光と、1年で6ヵ月の商売です。函館・札幌・小樽の様に通年観光客様が欲しいです。
- ・ 人材不足（大学生）により、アルバイトが見つからない。大学生の食事（飲食）が月10万円位あった事を計算すると、年間120万円の減少が見込まれる。
- ・ 高齢化してきている現状で大変です。
- ・ とにかく仕入れが高いことと、BSE問題の解決。
- ・ 売上高が振るわぬ時期に設備投資は非常に危険と思われるので今しばらく控え、諦めずに生き残り策を考えている。人口減に歯止めをかける様、行政に願いたい。
- ・ 利用回数の減少（景気が悪くなれば、お金も動かなくなる）
- ・ 過疎。高齢化の急速な進行。道都大学の撤退。石油製品の大幅な値上がりによる消費の減退。閉塞感。
- ・ マンネリ化。毎日の仕事にメリハリをつけたいが、今の状態では無理。パチンコ店の閉店時間を早めて欲しい。
- ・ 社会保険等掛金の増加

IV. 平成16年度を振り返って

- ・ 大型店・同業店が郊外に出店。客足の分散化と既存商店街への客足が激減している。
- ・ 客数減を単価でカバーする対策ながら、関連販売等で粗利益の落ち込みを補完するに至らなかった。負債は減少したが収益も減少した。店舗の改装・塗装等の設備投資の計画の目途がたたない状況にある。
- ・ 紋別市は『市制50周年』や『DOいなか博』を始めとした多くのイベントが行われたが、街の賑わいは無かった。物販業は全て全滅である。
- ・ 人口の減少に伴い売上減少。どうにか日々過ごすことができれば「良し」と言うしかない。この先も不安。
- ・ 大型店の出店により客足が遠のきました。前年に比べ売上減少多大。
- ・ 当組合は何とか前年並みをクリアしたが、業界としては決して良かったとはいえない。紋別市にとっては、『DOいなか博』では少し活気づいたが、全体としては決して良いムードではなかった。公共事業の減少、大学の問題、病院の問題、人口の減少 etc…
- ・ 帆立の品薄による製品の価格上昇の為、比較的やりやすい年でしたが、今年は逆の現象になるのではないかと心配です。